# ○令和5年度奨励研究

## 「鍼灸師を対象とした片頭痛の標準的治療に関する調査」

医科学センター　助教　石山　すみれ

### 1. 研究目的

片頭痛に対する標準的治療の進化は目覚ましく、今後も非侵襲的Neuromodulationデバイスの開発や新薬・新規治療が急速に進んでいくと思われる。鍼灸師になるための専門学校・大学で学んでいた際にはまだ認可されていない薬剤・治療法が標準的治療に組み込まれており、それらは術者が頻繁に知識をアップデートする必要があるが、新しい情報に鍼灸師がアクセスできる機会は少ない。また、頭痛の診療ガイドライン2021において、鍼治療は片頭痛の急性期・予防療法ともに推奨グレードBと位置付けられており、実臨床で鍼灸師が頭痛患者を診る機会というのは一定数あることが予想される。鍼灸師の片頭痛診療に対する知識の調査は今まで行われておらず、本研究では、鍼灸師を対象とした片頭痛の標準的治療に対する知識の現在の到達度を調査することを目的とした。

### 2. 研究方法

Google Formによる匿名のアンケート調査を実施した（茨城県立医療大学倫理委員会承認番号: e389）。対象者は①20歳以上，②はり師免許を有する，③Google Formのアンケートを入力することができるものとした。性別、学歴（専門学校卒・大学卒）、視覚障がいの有無、手技の違いなどは問わないものとした。質問項目は、免許取得年数・所属・頭痛を主訴にくる患者の割合・臨床で遭遇する頭痛の種類・頭痛の診断名の認知度・評価項目の認知度・頭痛専門医の講義やセミナーを受けた経験と今後の希望・使用薬剤の認知度・MOHの認知度・頭痛専門医との連携の有無とした。

### 3. 研究結果

解析対象は64名となった。免許取得年数は5年未満が最も多く45%、次いで5～10年が28%だった。回答者の所属機関は開業が最も多かった。普段の臨床で頭痛を主訴に来られる患者の割合は数ヶ月に1名以下が16%、1~2名/月は31%、5名程度/月が25%、10名以上/月が16%だった。頭痛の診断名の認知度は緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛は90％以上だったが、三叉神経・自律神経性頭痛は78%、二次性頭痛は64%だった。続いて評価尺度の認知度について聴取した。頭痛ダイアリーの認知度は59%、HIT-6の認知度は37%、MIDASの認知度は20%であった。薬剤の使用過多による頭痛（MOH）の認知度は83%と高い結果だった。片頭痛の予防的治療の認知度は53%であり、知っている予防薬について聴取したところ、CGRP関連抗体薬が最も高い結果だった。最後に、現在頭痛専門医と連携をとっているか、との質問項目には90%が連携をとっていない、と回答した。

### 4. 考察（結論）

今回の調査では、MOHの認知度は83%と高い傾向だった。Shibataらの医療従事者を対象とした調査では、MOHの認知度は26.5%、予防薬の認知度は19.3%と報告されている[1)]。また薬剤師と看護師を対象とした調査でも、MOHをある程度知っていると回答したのは看護師で7%、薬剤師で45%となっている[2)]。本調査は、主に頭痛診療に興味関心のある鍼灸師が母集団になっており、認知度が高い傾向にあったと考える。しかし本研究では、もし自分の担当患者がMOHの状態にあると考えた場合に、適切な医療機関に受診勧奨を行ったのか、という点について明らかにできておらず、今後の検討課題である。

### 5. 成果の発表（学会・論文等，予定を含む）

【学会発表】

石山すみれ，柴田靖，松村明．鍼灸師を対象とした片頭痛診療の知識に関する調査．第51回日本頭痛学会総会．2024.12.1．神奈川県横浜市

【外部資金】

ファイザー公募型医学教育プロジェクト助成　片頭痛診療の適切な診断と治療推進のための教育．医鍼連携モデル（Migraine Treatment and Acupuncture Unity: MTA Unity）の構築に向けて　複数回セミナーを通した片頭痛臨床に携わる鍼灸師の知識向上と頭痛専門医からみた鍼灸治療に対する障壁の調査．2024/1/1～2025/12/31

6．参考文献

1) Shibata Y, Kuniyasu R. Prevalence and knowledge of headaches among Japanese hospital worker. Neurology Asia. 2015: 20(4); 417-419.

2) 西上夏加，石井亮太郎，芝田雄登ら．看護師並びに薬剤師を対象とした薬剤の使用過多による頭痛の認知度調査．日本頭痛学会誌. 2018: 45(2): 474.